

○耦 ……二人一組の仲間。二人ならんで畑仕事をする。「耦耕」は「二人がそれぞれ鋤を抱え、肩を並べて耕す」の意。刊本では「耦」の字になっているが、この字だと「ハスの地下茎、蓮根」の意となり、補説で述べる「傳説」の故事から外れたものとなる。従ってここは、「尊経閣文庫本」(岩波古典文学大系本)の底本の「耦」の字を採った。

56 ○范舟…「范蠡」は「春秋越、楚の三戸の人。字は少伯。文種と共に勾踐に仕え、苦身戮力、勾踐と深謀すること二十余年、ついに呉を滅ぼし、会稽の恥をすすぎ、上將軍と称せられたが、大名のもと久しくおるべからず、且つ勾踐の人と為り、艱難を共にすべく、安樂を共にすべからずを以って、去って斉に行き、姓名を変じて鴟夷子皮しひと称し、産、数千方を致す。斉人、その賢を聞き、相となしたので、また、財を散じ尽くし、去って陶に止まり、自ら陶朱公と号し、後、再び、巨万の富みを致し、陶に来す」。

↓ 補説②

○湖 ……五湖。太湖のこと。中国江蘇省南部の太湖。南岸は浙江省に属する。

○扁 ……小さい、「扁舟」は小舟のこと。↓ 補説②



補説①

○55 句目「傳築巖邊耦」に込められた故事について

【傳説の故事】(『史記』卷三、殷本紀第三)

武丁、夜夢得聖人。名曰説。以夢所見視群臣百吏。皆非也。於是迺使百工營求之野。得説於傅險中。是時、説為